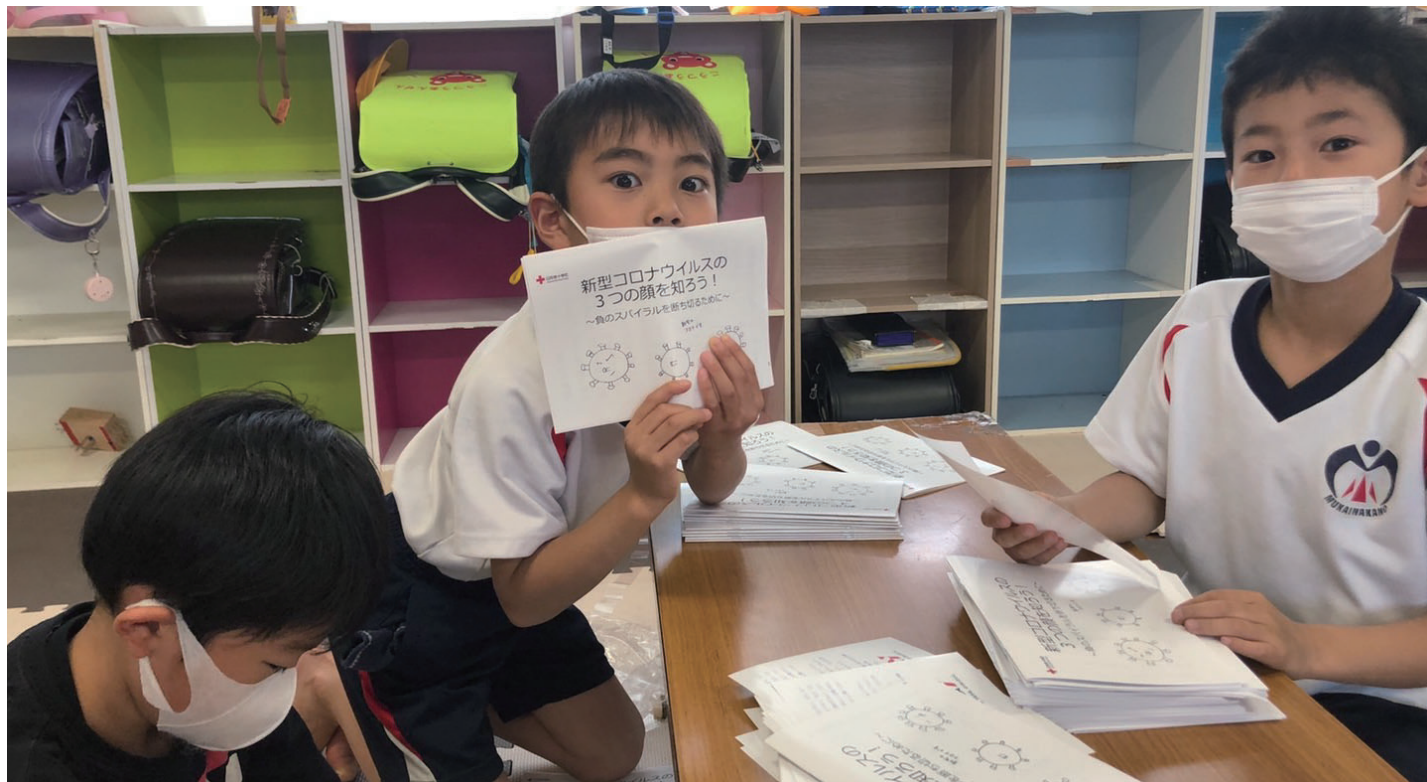


YMCA News

6



「カッコいい男になりたい」



私は今年で27歳になる。YMCAでサッカーを始めたのは17年前。YMCAでボランティアリーダーを始めたのが9年前。スタッフとして入職したのが4年前。周りの環境に様々な出会いと変化があったが、盛岡YMCAで過ごしてきた時間は自分の中でとても大きな時間となり、その中でもサッカーというのは私の人生で大きな割合を占めている。

これまでの人生で様々な環境でサッカーをしてきた。小学生時代は盛岡YMCAのベストキッズ、中学生時代は部活、高校時代も部活、社会人でもサッカーを経験した。有難いことに小学校の球技大会、中学・高校の部活では副キャプテンを経験させてもらった。一度もキャプテンは経験していない。自分でも不向きだと思う。キャプテンに限らず、私は逃げているのかもしれない。みんなをまとめる統率力、時には嫌な役回りをしなくてはならない責任、チームの代表となる重圧。みんなの中心になる大変さを一番近くで見てきたからこそ自分には不向きだなと思う。YMCAで大学生の時にボランティアリーダーをしていた時にも、副〇〇という場所にいる自分がいた。それから数年がたち、私が小

学生や中学生のころに関わってくれたリーダーたちや大学生の時に周りにいたリーダーたちを思い返したときに、その人たちはどんな時でも全員とても魅力的だった。

日常のプログラムや、キャンプの時のプログラムなど、みんなの前に出るときはもちろんのこと、遊んでいるときでも、笑っているときでも、泣いているときでも私にはとてもかっこよく見えていた。得意なことだけでなく、不得意なことがあってもチャレンジする。自分の弱さを認め、周りを認める。そのような姿が私にはかっこよく見えていたのだと思う。プロのサッカー選手になることを夢見ていた高校時代から、夢をあきらめ、大学へ入学し、将来の夢を失い、何になりたいのかわからなくなった。たくさんの人と出会い、私は今、カッコいい男になりたい。



ウェルネス事業部主任 向平悟

盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

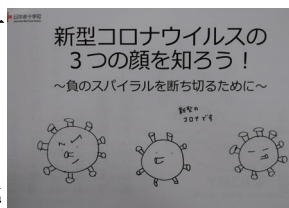
1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

新型コロナウイルス感染症にかかわる小冊子配布

3 すべての人に
健康と福祉を



盛岡YMCAでは、日本赤十字社が作成した「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう! ~負のスパイラルを断ち切るために~」を、小冊子として盛岡市内及び近郊地域の小中学校に通う、約30,000人の児童生徒に配布することとなりました。



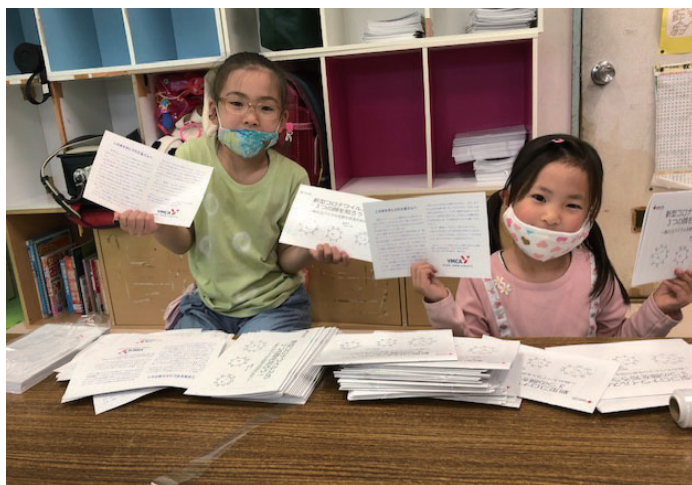
岩手県内では2020年5月24日現在、コロナウイルス感染症の罹患者はいませんが、全国的にみると感染者が毎日報告され、いつ岩手県内で罹患者が出てもおかしくない状況にあります。また、コロナウイルス感染症罹患者、病院関係者、コロナウイルス感染症罹患者がいる都道府県からの移住者等に対する、偏見と差別的な対応が新聞等で報じられています。

今回、YMCAでは日本赤十字社から快諾いただき、岩手県教育委員会と日本赤十字社岩手県支部の後援のもと作成したこの冊子が、罹患者のいない岩手の地において、罹患者や現場で日々対応し

ている方々への、理解を深めるために用いられることを期待しています。配布する冊子には、YMCAが掲げる「ポジティブネットのある豊かな社会の実現」を目指した大切な考え方が記してあります。この冊子を手にした子どもたちが、「不安について」「差別について」、そして「自分たちの生きる大切な世の中を少しでもよくしていくにはどうすればいいのか?」「そのために今、自分たちにできることは何なのか?」について考えるきっかけになるだけでなく、家族で話し合うきっかけになってくれたら嬉しいと考えています。この記事を目にした方で、この運動に賛同いただける方や、ぜひ自分たちの家庭でも目にしたい、自分たちのかかわりのある方々へ広めたいという方がいらっしゃいましたら、お気軽に、YMCAまでご連絡ください。

コロナウイルスは目に見えるものではありませんが、今回を一つのきっかけとして、YMCAのすすめる「ポジティブネットのある豊かな社会」が広まっていけばと思います。

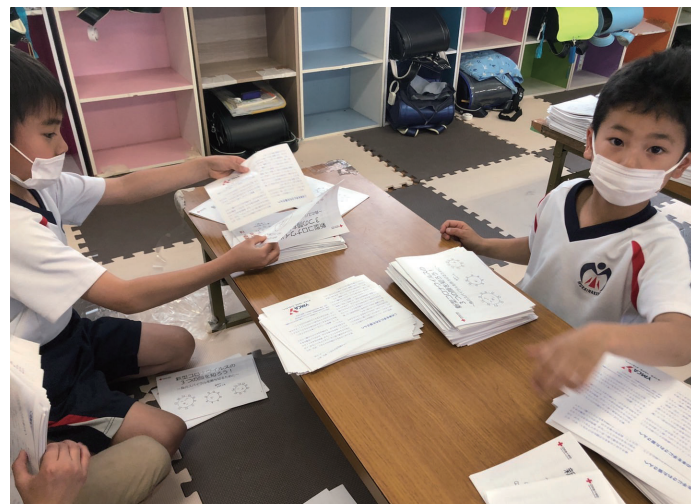
本部事務局長 浅沼慧



【ぶらいむ・たいむ本町校】



【ぶらいむ・たいむ前潟校】



【ぶらいむ・たいむ向中野校】



【ぶらいむ・たいむ盛南校】



サッカー教室

盛岡YMCAは今年度も土淵・宮古・高松・向中野・篠木・本町の6つサッカースクールで活動を行ないます。各サッカースクールで人数や会場、開催曜日などは違いますが、サッカーを通じて仲間たちと協力することの大切さや難しさ、楽しさを味わってもらいたいと思っています。

サッカースクールの他にも盛岡YMCAには「ベストキッズ」という選手育成コースが存在しており、各サッカースクールの中で週1回じゃ足りない!もっとサッカーが上手になりたい!と思うメンバーが集まっています。このベストキッズは盛岡YMCAの代表としてサッカー協会の主催する公式戦などに出場しています。同じスクールのメンバーだけでなく、すべてのサッカースクールから集まっているので、週に3回の練習を通じ、技術に加え、サッカースクール以上に同じ時間を過ごすので、小学校の違いや学年の違いを超えた仲の良さも魅力の一つです。

そして、サッカーの活動では3大会と呼ばれる盛岡YMCA内の大会が存在します。「ファミリーサッカーフェスティバル」「チャンピオンズカップ」「フットサル大会」として例年は各期に開催されています。今年度は残念ながらファミリーサッカーフェスティバルは中止となってしまいましたが、今後の大会の開催は未定となっています。もし、開催されたら、サッカースクールで普段楽しくサッカーをしているのを大会形式で、もっと楽しくサッカーができるということで盛り上がること間違いなし!

今年も盛岡YMCAのサッカーから目が離せません!!あー、今年もたくさんの仲間が増えて、楽しくサッカーできるといいなあ!!

盛岡YMCAサッカースクールディレクター 向平悟



水泳教室

水泳教室が休講となって、3カ月…。やっと6月から水泳教室が始まるのが決定し、とてもわくわくしています。3月は各水泳教室を卒業する小学6年生たちに別れの挨拶もまともにできずとても寂しかったことを思い出します。また、いつも水泳と一緒に戯れていた子どもたちは、今頃家で何をしているのか?あの子はきっとスイッチばかりやっているんだろうな…。あの子はきっと漫画を読み漁っているんだろうな…。また、別の子はきっと外で遊ばずストレスが溜まっていないだろうか…。と、そんなことを考えながら、会える日を楽しみにしていました。

私は今年から盛南センターの所属となり、盛南センターの子どもたちと毎日楽しく過ごしています。先日、学童で水泳教室で使用するアームヘルパーの点検を行っていると、実際に水泳教室に通っている子や、水泳教室に通っていない子たちも一緒にお手伝いをしてくれました。「早く水泳に行きたい!」「いつからできるの?」「もう始まるの?」と、たくさんの質問が飛んできました。そんなこともあり、私は開校日のみんなの顔、反応がとても楽しみでなりません。盛岡YMCAの水泳教室では、泳げるようになりたい!リーダーに会いたい!仲良くなった友達に会いたい!など、さまざまな思いで子どもたちが参加をしています。

上手になることだけが目標ではなく、その過程にある小さな「できた」の積み重ね、仲間がいる楽しさを大切に6月からも活動していけたらと思っています。

体育教室ディレクター 武田悠(ゴリナ)

体育教室

「おはよー!!」

体育教室で毎週響き渡る子どもたちの声。愉快的子どもたちは、体育教室の会場に入るや否や、リーダーのもとへ一目散。始まる前からマットの上で相撲、鬼ごっこ、かくれんぼ。中にはお気に入りのおもちゃを持ってきて、見せてくれる子も。そんな個性豊かな子どもたちとの体育教室は、いつも笑顔が絶えません。

始まる時間になると、一列に並び挨拶。ストレッチやウォーミングアップを元気に行います。しかし、楽しいことばかりではありません。マット運動が苦手な子、跳び箱が苦手な子、自分にはできないと思い込んでいる子、それぞれにかけているものがあり、楽しく行っていたかと思うと、急にできないから…と自信を失ったり、みんなはできているのに自分にはできないのだろうか…と深刻な表情になったり、子どもたちによってさまざまな悔しさがあるんだと私は毎週見せつけられています。

そんな時に、一番の支えになるのは、やはり仲間の存在。できない子に対して、「こうするといいよ」と教えてあげたり、「がんばれ!」と応援してあげたりそういったたくさんの声、励ましの声で、これまで何度もできないことが、できるようになってきました。できたときに自然にでるみんなからの拍手は、できなかった子にとって、とても嬉しく、あきらめないで取り組んでよかったと、その子の自信につながっているのではないかと思います。これからも元気に、悔しい思いを乗り越えながら、たくましく、体育教室を行っていけたらと思います。

体育教室ディレクター 武田悠(ゴリナ)

時(カイロス)

今はこんなに悲しくて
涙も枯れはてて もう二度と笑顔には
なれそうもないけど
そんな時代もあったねと
いつか話せる日が来るわ
あんな時代もあったねと
きっと笑って話せるわ...

中島みゆきの「時代」は二十歳の頃の僕とともにあった。京都での浪人生活2年目、僕は予備校の授業についていけず不登校状態に陥った。賀茂川縁をぶらぶら歩きながらよくこの歌を口ずさんだものだ。その頃は、浪人できるということがどれほど恵まれたことなのか全く理解していなかった。

話は変わるが、旧約聖書「創世記」に登場するヨセフの人生は波瀾万丈だった。12人兄弟の11番目、父親から溺愛されていたものだから、彼の一举一動が兄たちにとってはしゃくに障る。今で言う「調子に乗った奴」だったのである。ある日、兄たちはヨセフを穴に突き落とし、父親には、獣にかみ殺されたと報告する。

一方、ヨセフは隊商に発見されエジプトに連れて行かれ、奴隷として売り渡される。その後、ある事件に巻き込まれ投獄されるのだが、エジプト王が見た悪夢をいずれ飢饉が訪れる前兆だと解き明かし、そのことがきっかけで宰相まで上り詰めていく。

やがて、彼の予言通りエジプト全土は飢饉に見舞われる。その影響は周辺諸国にも及ぶのだが、エジプトはヨセフの指導の下に食料を貯え保管していた。飢饉はますます激しくなり、ヨセフの兄たちは、エジプトに穀物を買いに来る。そこでヨセフは兄たちを見つけ、自分があのとき穴に落とされた弟であることを告げる。そして、自分がエジプトに連れて来られたのは、家族の危機を救うための神の摂理だったことに気付くのだ。

ギリシャ語には時を表す2つの言葉がある。ひとつは「クロノス」。これは日常、カレンダーや時計を見たりしている「量的な時間」だ。僕たちは「クロノス」の中で一喜一憂しながらあくせく生きている。

これに対して「カイロス」は「質的な時間」を意味する。人間の知りうる「時」を超えた「時」だ。実は、もう二度と笑顔になれそうもない時こそ、運命を決める時間なのかも知れない。だからこそ僕たちはじっと耐えながら力を蓄える必要がある。ヨセフは穴に落とされて以来ずっと「カイロス」という時の中に生きていたのだ。

「神はすべてを時に適って麗しく造り、永遠を人の心に与えた。
だが、神の行った業を人は初めから終わりまで見極めることはできない。」

(旧約聖書 コヘレトの言葉 3章11節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

【リーダーチャンネル】

盛岡YMCAのリーダーたちは、現在ボランティア活動の自粛をしています。そんなリーダーたちが今できることを考え、行動しています！その一つが、『リーダーチャンネル』の発信です。SNSを通して、子どもたち、大学生、社会に向けて、リーダー一人一人の個性を活かし、おうちの楽しみ方、元気と笑顔を届けています。ぜひご覧いただければと思います！



Facebook



Twitter



Instagram

『とべないほたる1』

小沢昭巳 原作
関 重信 画



私が「とべないほたる」の絵本に出会ったのは、保育園に通っていた時でした。

母が「とべないほたる」の絵本を持ってきて、幼かった私と弟に読み聞かせてくれました。読んでもらった後、ほっこり温かい気持ちになり何度も何度も読んでもらった記憶があります。保育園でも絵本の読み聞かせはありましたし、小学校でも読み聞かせの時間があり、多くの絵本に触れる機会がありました。絵本以外にもたくさんの本を読んできました。しかし、私が大人になってから本のことを聞かされると、思い出すのは「とべないほたる」一冊です。

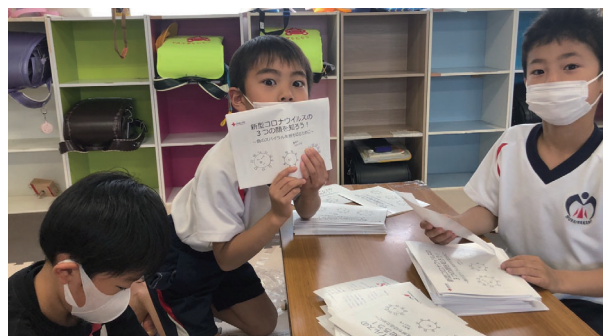
「とべないほたる」は、一言でいうと『優しい』絵本です。絵本の内容は、もちろん優しい話です。ですが、それだけではありません。読み手が、子どもでも大人でも、読んだ人をほっこり温かい気持ちにさせてくれる、優しさが詰まった本なのです。1人で読んでも、家族や友達の人みんなで読んでも、その場にいた人が優しい気持ちになれます。

私がずっと覚えている理由は、話の内容よりも優しい気持ちになったことや、母と弟との優しい時間があったからだと思います。大人になった今、「とべないほたる」を読み返してみると、優しいだけの話ではないことに気づきます。相手を思いやるとはどういうことなのか、相手のためにできることは何かを考えられる絵本になっています。それを考えれば考えるほど、「とべないほたる」の内容がより優しいものなのだと気づきます。絵本の内容をどのように受け取るかは、その人の自由です。この絵本を読むと、自分が他の人と違っていてもいいのだと言ってくれているような気がします。

だから、母は私たちに読み聞かせてくれたのかもかもしれません。年齢問わず読める本です。それが1人ではなく、一緒に読んでくれる人がいれば思い出になる優しい時間が出来上がると思います。優しい気持ち、優しい時間、優しい思い出、そんな色んな『優しい』を贈ってくれる絵本になっています。

YMCA前潟センタースタッフ 大久保里美

表紙の写真から



盛岡YMCAは、日本赤十字社の作成したガイドブック「新型コロナウィルスの3つの顔を知ろう!」を印刷して盛岡市並びに近隣の小学校へ配布を開始しています。(後援:岩手県教育委員会、日本赤十字社岩手県支部) YMCAの4箇所の学童クラブ(ぷらいむ・たいむ)に通う子どもたちがボランティアで冊子のセットを手伝ってくれています。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>